

「Uターン就農」を考えている方へ

上都賀管内で、Uターン就農し、生き活きと農業に取り組まれている方々を紹介します。

トマト

地域に愛されるトマト農家を目指して！
鹿沼市 合谷木 峻一さん、初実さん

米・そば

みんなで協力して地域の農地を守りたい！
日光市 八木澤裕史さん、奈々子さん

アスパラガス・
さといも

自分の力を試せる農業は面白い！
日光市 福田 雅之さん

りんどう

感動するような美しい花を多くの人に届けたい！
日光市 伴 隆行さん



農業を継ごうと考えている方の参考にして
いただければと思います。



※写真：栃木県の農家応援サイト「カジル」提供

地域に愛されるトマト農家を目指して！

ごうやぎ しゅんいち
 合谷木 峻一さん
 ほつみ
 初実さん
 (鹿沼市)
 経営
 トマト 23a、水稻 1ha

トマト栽培の強み

トマト栽培のメリットについて、峻一さんは「収穫期間が十月～翌年七月と長く、安定した収入が見込めること」、

年間を通じて作業があるため、常時雇用を導入しやすいこと」を挙げてくれました。こうしたトマト栽培の強みを活かしながら、食味・品質の向上と、経営規模を拡大を進め、更なる経営安定を目指しています。

美味しいトマトへの挑戦

先代(初実さんの父)は味にこだわっており、本当に美味しいトマトを作っていました。この思いを受け継ぐ合谷木夫妻は、養液栽培に取り組んでおり、前作の反省を踏まえ、トマトの生育を

夫婦でトマトへの道をスタート

合谷木さん夫妻は、結婚後、お子さんが生まれたことをきっかけに、平成二十八年に初実さんの実家に就農しました。就農前、トマトは食べることに専門だったという峻一さんは、「とちぎ農業未来塾」で一年間農業の基礎を学び、トマト栽培を始めました。

就農当初は、ほとんど手探り状態であり、上都賀農協トマト部会青年部に参加し、同世代の仲間と情報交換しながら一つ一つトマトの栽培技術を積み上げてきました。

よく観察し、状況に応じたきめ細かな肥培管理、ハウス内温度等を調整することで、より美味しいトマト作りを目指しています。その成果は、出荷先の直売所のお客さんの反応に表れています。「美味しい」という声は年々増えており、大きな手応えを感じています。



農業の魅力を若い人に伝えたい

現在、高校生が週一回のトマト作業のアルバイトに来ており、「もっと、農業に興味を持ってもらいたい。」との思いを強くしています。「農業は、作物に愛情を注いだだけ返ってくるやり甲斐のある仕事であり、子供と一緒に作物の成長をみる日々はとても楽しい。こうした魅力を発信し、一人でも多くの若者に農業に興味を持ってもらいたい。」と話す初実さん。

合谷木さん夫妻の話を聞き、自身の農業経営は勿論、地域への深い愛情が感じられました。





まなかが農業をやるとなると

裕史さんは、日中は農業、夜は看護師として働いています。日光市で生まれ育ち、看護師として埼玉県内で働いていましたが、両親の農業を手伝うために、日光市に戻ってきました。子供のときは両親がやっている農業を継ぐことに抵抗を感じていましたが、ある日周りを見て将来の地域の風景を思い描いてみると、地域を守るの自分たちしかいないのではないかと気づきました。「若い人はいないし、このままでは田んぼが廃れて林になってしまう。機械は家に揃っているし、自分が地域を助けないと。」そう思い、裕史さんは農業を始めることを決断しました。

農業って面白い

奈々子さんは、絵を描くのが好きで漫画家を目指していました。裕史さんとの結婚を機に、漫画家になる夢を諦め、裕史さんと共に農業に励む毎日が始まりました。結婚前は、農業は汚れるし疲れるし手伝いたくない、と思っていました。しかし、大きな機械に乗って運転してみると、農業の面白さを感じ、夢中になってしまいました。「農業は毎日やるのが違うから楽しい。」「日々刻々と変わる天気や作物を相手に奈々子さんはキラキラと輝いています。今では機械乗りは全て奈々子さんが担っています。そんな奈々子さんはトラクターやコンバインをカッコよく乗りこなしています。

みんなで協力して地域の農地を守りたい！
〜我々はスーパーマン〜

日光八木澤ファーム
やぎさわ ひろし 裕史さん
八木澤 奈々子 奈々子さん
(日光市)
経営
水稻 30ha、そば 10ha

諦めた漫画家の夢が輝く

6次産業

「日光八木澤ファーム」という屋号は裕史さんが名付けました。お米だけではなく、シエラートやボン菓子の商品化して売っています。さらに商品の包装デザインは奈々子さんが描いた自慢の絵が活躍しています。裕史さんの人間味あふれる商談力と奈々子さんの絵画力、まさに夫婦の力が合わさり、飛ぶように商品が売れています。お米は、銀座の有名な店に並び、シエラートは、道の駅や農協の直売所に並んでいます。ネットショップでの販売も好調です。日光の地元企業とのコラボ商品も続々と試作中とのことです。

みんなで力を合わせて

地域を守りたい

お米のパッケージは一つ一つ違うものにこだわり、印刷ではなくスタンプを押し、その仕事は裕史さんのお母さんが行っています。ボン菓子は、社会福祉法人「愛晃の社」と協力して作っています。裕史さんは看護師としての「人を助けたい」という強い思いがあり、農業は、高齢者、障害者、商業者ら誰もが輝ける場であると感じています。また、農業を経験したことのない新しい人を招き入れ、地域の田園風景を守ることを目標に毎日過ごしています。奈々子さんは漫画家の夢は諦めましたが、今まで培ったイラスト技術を商品づくりに活かすことで別の形で夢を叶えています。温故知新を大切にしている裕史さんは、お父さんから一つでも多くのことを受け継ぐことを心掛けています。代々受け継がれる農業を守りたい。農業は、農地を守ることで地域の助けになる。農業という職業は他のどの職業よりも輝き、「日光八木澤ファームは地域を守るスーパーマン！」と感じました。





サラリーマンから農業者へ

福田さんは平成三十年に就農し、日光市猪倉地区でアスパラガス二十七a、さといも十aを栽培しています。

就農前は、サービス業に勤務していましたが、元々農家出身だったこともあり、「何時かは農業を」という思いがありました。勤めを辞めるタイミングや両親と自分の年齢を考慮した結果、平成二十九年に就農を決意しました。

アスパラガスを経営の柱に

以前、農業振興事務所に相談した際にアスパラガスを勧められ、価格も安定し

自分の力を試せる農業は面白い！

ふくだ まさゆき
福田 雅之さん
(日光市)

経営
アスパラガス 27a
さといも 10a

いる作物なので、「就農する
ならアスパラガスで」とい

う思いがありました。退職後は「とちぎ農業未来塾」を受講し、一年間にわたって施設野菜の栽培技術や農業経営のノウハウを学びました。研修修了後、両親とは経営を分け、自身で独立したアスパラガスの経営を開始しました。

アスパラガスは栽培の特性上、本格的に収穫できるのは定植から三年目になります。そのため就農一〜二年目は、補完的に定植後すぐ収穫できるスッキーニを作付けしました。また、就農にあたっては、国・県・市の補助金等支援制度が助けになりました。

現在の経営と今後の目標

就農当初から、アスパラガスを栽培する先輩農家をはじめ、農協職員や農業振興事務所等の指導を受け、コツコツ学びながら経営を行っています。三年目からは、アスパラガスに加え、労力が競合しないさといもを新たに導入しています。また、労働力として農福連携農業での障害者雇用制度を利用するとともに、繁忙期は、家族の助けを得ながら作業をしています。

福田さんは「様々な社会経験を得てから就農して良かった」と考えています。



「農作物は、天候次第で毎年出来が変わってくる。手探りなので正直大変なことも沢山あるが、サラリーマン時代に色々な世界を見てきたので耐えられる。自分の力で経営できるのはやり甲斐がありました。面白い」と、農業の魅力を話してくれました。

就農4年目の今年、ようやくアスパラガスが軌道に乗りはじめました。今後は品種比較なども行いながら、安定した農業経営を目指します。



感動するような美しい花を多くの
人に届けたい！

ばん 隆行さん
たかゆき
(日光市)

経営
りんどう 24a、
水稲 1ha

就農した経緯

県外で中華料理人として腕を振るって
いた伴さんは、十年ほど前に水稲農家と
して親元で就農しました。当時お子さん
は幼稚園に通っており、子供を自然豊か
なところで育てたいという思いから、就
農を決意しました。

花づくり・農業の魅力

就農後、水稲だけでは経営の継続が難
しいと判断し、周辺の先輩農家や農協職
員、農業振興事務所職員に相談したとこ
ろ、日光市の特産物「りんどう」を勧めら
れ、3年前に新規導入しました。

元々、ものを作ることや、人
に喜んでもらうことが好きだ
った伴さん。花づくりは、その両方を満
たすことができると思いました。

りんどうの花の美しさは格別です。こ
の感動するような美しい花を多くの方に
届けたい思いで、仕事に励んでいます。

開花期には、近所の子供達が見に来る
ことがあります。これも花づくりの楽し
みの一つになっています。農業は、自然
を相手にする職業なので、何が起きるか
わからない。時には、厳しさを味わうこ
ともあります。しかし、自ら思い描いた
ことを計画し、具現化できることや、自
分のペースで仕事ができること、そして、
家族との時間を共有し、一緒に仕事がで



きることなど、多くの魅力があること話
してくれました。

仲間と目指す産地の維持・発展

伴さんが栽培するりんどうは、清涼感
のある日光オリシナルブランド「日光み
やび」(初夏に開花)と、鮮やかな青い花
を咲かせる「クラリナサファイヤ」(秋に
開花)の二品種です。現在、上都賀農協



りんどう研究会に所属し、同じりんどう
を生産する仲間と共に学び、栽培知識や
技術を高め、消費者や実需者が求める質
の高い商品づくりや、県内一のりんどう
産地の維持・発展に努めています。
栽培三年目なり、採花面積も増え、収
益も確保できるようになりました。
今後、高品質なりんどうを生産し、
産地ブランド力を保持しながら、自身の
経営の更なる収益向上を図るため、様々
な品目の試作や、花き部門の規模拡大を
していきたいと、意気込みを語ってくれ
ました。